

2023年5月24日  
東海旅客鉄道株式会社

## 東海道新幹線 総合事故対応訓練の実施について

東海道新幹線における大規模災害や不測の事態の発生に備え、迅速なお客様救済と早期復旧に向けて、毎年、各系統の社員及びグループ会社の社員が合同で総合事故対応訓練を実施しています。今年度は、甚大化する自然災害を想定した復旧訓練など従来の訓練に加えて、新たにJR西日本との連携訓練やICTを活用したより正確かつ迅速な復旧訓練等を行います。

1. 実施日 2023年6月7日（水）
2. 場 所 東海道新幹線 烏飼車両基地
3. 参加人員 約1,000名
4. 主な訓練内容（別紙）

### （1）ちょう架線断線の発生を想定した復旧訓練

沿線からの飛来物により、ちょう架線が断線した状況を想定し、地絡をすみやかに解消したうえで梯子を用いて接続作業を行う訓練を実施します。また、作業員にウェアラブルカメラを着用させ、現地の状況を指令と共有することで、指令員が復旧作業を遠隔で支援する、ICTを活用した新たな訓練を実施します。

なお、この訓練で、ウェアラブルカメラの効果を確認できれば、実際の復旧作業においても活用していく予定です。

### （2）確認車の故障を想定した連結・牽引訓練

JR西日本の確認車が新大阪駅構内といったJR東海管内で故障した場合を想定し、JR東海の確認車の連結・牽引により救援する訓練を初めて実施します。接近する確認車に対する停止合図や連結作業など、故障発生から牽引するまでの一連の流れを確認することで、JR西日本との連携力を強化します。

### （3）不測の事態を想定した車内における警察との連携訓練

列車内で不審者が周囲に危害を加える状況を想定し、防護装備品を用いて不審者への対応等を行う訓練を実施します。乗務員、パーサー、警備員、指令員がグループ通話システム等を活用し、警察とも連携して対応します。

# 訓練のイメージ

## (1) ちょう架線断線の発生を想定した復旧訓練

## (2) 確認車の故障を想定した連結・牽引訓練



ウェアラブル  
カメラ



電力指令

指令員と状況を共有し  
必要に応じて遠隔で支援  
(ICTの活用)

梯子作業でちょう架線を接続



確認車の連結



JR西日本

JR東海

連結部(拡大)

## (3) 不測の事態を想定した車内における警察との連携訓練



不審者との  
距離を確保



防護装備品を活用し  
不審者と対峙



警察との連携